

魚津市新庁舎整備検討委員会 第3回会議 会議録（要旨）

【開催状況】

- 1 開催日時 令和5年2月20日（月）14：00～15：45
- 2 開催場所 魚津市役所2階 第1会議室
- 3 出席者
 - (1) 委員
石川委員、浦田委員、大島委員、大野委員、木下委員、清水委員（会長）、野澤委員、平田委員、松岡委員、山本委員、吉森委員、米澤委員
 - (2) 市
副市長、総務部長、財政課長ほか事務局員

【関連資料】

- 資料No.1 魚津市新庁舎整備に係る基本理念と基本方針及び整備場所に関する検討報告書（案）について
- 資料No.2 新庁舎整備事業 令和5年度事業予定について

【会議内容】

- 1 開会
- 2 委員の異動について
- 3 議題
魚津市新庁舎整備に係る基本理念と基本方針及び整備場所に関する検討報告書（案）について
- 4 その他
新庁舎整備事業 令和5年度事業予定について
- 5 次回の会議日程ほか
- 6 閉会

【以下、質疑、意見等】

（以下、主として資料No.1に関連した質疑、意見等）

委員 前回の会議では、現在地で建て替えることがベストだと申し上げた。その後、様々なことを考えていたが、最近では富山市の武道館建設が棚上げになった事例があった。それは、原材料費が高騰し、当初の設計が成立しなくなった状況だと聞いている。魚津市も、今後70億円という予算で行くのかどうか。これまでは、庁舎の新築という方針を前提に話してきた。前提をひっくり返すつもりはないが、財源を考えたときに、旧大町小学校を改築するという案は全く考える余地がないのか。グラウンドを掘り起こすことなく校舎を改築すれば、埋蔵文化財の発掘調査という懸念もなくなる。もともとは、現在の県総合庁舎の場所が市庁舎だった。近辺には検察庁や裁判所、法務局もあるので、周辺一帯で官庁街といった取扱い

もできる。旧大町小学校の改築であれば、財源も予定の半分ほどでできるのではないか。ただ、使い勝手に言うと、旧大町小学校庁舎は改築しても使い勝手のよい建物になるのかどうかという疑問はある。前に別の委員も言っていたが、現在は人が集まる、ある程度の規模の庁舎は必要だと思う。ただ、現代は私たちが想像する以上にデジタル化が進行している。果たして、50年後にそれだけ大きな規模の庁舎が必要なのか。今回は、市庁舎を新築するという方針のもと現在地がベストだと申し上げたが、本当にそれでよかったのかと考えている。

会 長 現在の気持ちを率直に発言いただいた。ほとんどのことは、前回までの会議録を見ればご理解いただけるものと考えているが、事務局からもう一度ご発言願えないか。

事務局 旧大町小学校跡地については、庁内検討会議において検討してきた。整備にあたっては、事前に埋蔵文化財の発掘調査が必要になり、事業期間の見通しが立たないこと、発掘調査に費用を要すること、またそもそも建設が可能かどうかという段階から検討しなくてはならないことから、早期実現性に劣るとの結論で整備候補地から除外した次第である。財源について、予算発表でもお示ししたが、令和3年度の決算で黒字が確保され、基金にかなりの額を積み立てることができる見通しである。来年度以降も、健全な財政運営を図りながら少しずつ積み立てていく必要があるが、現時点では70億円という見通しで進めているところである。事業費については、庁舎の適正規模についても考えたうえで来年度以降も精査していきたい。現状では、現在地での建て替えという方向で進めたいと考えている。

委 員 前の委員に同意する。委員が言いたかったのは、旧大町小学校の跡地に建てるというよりは、本当に新築するのがベストなのかという意味だろう。使用されていない建物も多くある中、約10年の歳月をかけて新たな庁舎を建てることは適切なのか。例えば東京オリンピックでは、当初はコンパクトな大会を打ち出していたが、実際はそうならなかったという意見がある。現在もある程度充実した建物があるのに、お金をかけて立派なものを建てる必要はないのではないか。提案だが、新築ではなく現庁舎の改築はできないのか。また、新築以外の方法はどこまで検討したのか。例えば、氷見市では体育館を改築したという事例がある。新築よりも改築のほうが、SDGsの理念にも合致するのではないか。70億円という事業費も、今後人口が減少し、資材費も高騰していけば、負担が膨れ上がる可能性がある。現段階での予算は30～40億円としておき、「最大でも70億円」というふうにしておかなければ、富山市の武道館と同じ道を歩むのではないか。現段階で事業費を下げておく必要があると感じる。

副市長 まず、新築ではなく改築できないのかという意見について、改築はできるが、高額になるということも想定される。また、現庁舎は骨組みが相当古く、改築しても近い将来また改築が必要になることも想定される。よって、現庁舎を改築するという方法は難しいものと考えている。魚津市は、これまでに小学校等の改築で費用が高額になったという経験もしており、むしろ新築するほうが事業費を抑えられるものと考えている。事業費の高騰については、市も懸念しているところである。市としては、事業費が高騰しないような設計を行ってまいりたい。適正規模や機能を十分に検討し、必要最低限なものを建設するという考えで、なるべく70億円という予算の上限を超えないように進めてまいりたい。

会長 過去2回の委員会で、皆様の不安や懸念を払しょくできていなかった部分があり、申し訳なかった。本日の指摘については、これまでも指摘されてきたことが多い。過去の議事録には、事務局の見解が書かれており、改めて参照していただきたい。現在は、基本理念と基本方針及び整備場所について取りまとめ、報告書を提出するという段階である。検討報告書（案）は、これまでの委員の意見を反映し、即したものとなっており、ここまでは皆様に承認していただいたものと考えている。理解を深めるために議論の後戻りをするのは構わないが、市長への報告書は、これまでの議論の大枠について取りまとめたものである。全てに賛成されないことも理解するが、基本的にはこれまでの議論で承認された内容の報告書であるということを知っていただきたい。

委員 前は、個々の意見はあったものの、全体の方針ということで同意した。今回、改めて意見を聞かれたので、また個々の意見を述べたまでである。決まっているというのなら、最初から意見を聞かなければいい。改めて意見を聞かれたので、述べさせてもらう。前回、候補地の選定で、最初から2つの候補地が提示されていた。その前に、我々でいくつかの候補地を挙げたかった。他の候補地について述べたところ、門前払いのような形だった。整備場所については、もっと大きな視野で検討したかった。現在地のメリットが大きいという説明で、前は同意した。しかし、ここは検討委員会なのだから、例えば旧大町小学校、旧村木小学校、カーバイド工場跡地、駅舎との複合化、吉田グラウンド、それぞれの候補地について議論を深めたかった。前は、議論が深められなかったが少々了解した。繰り返すが、決まっているのなら最初から意見を聞かなければいい。

委員 私は、新庁舎の新築については賛成している。もちろん、建築までの数年に起こるコストの変化、市町村の構成の変化に柔軟に対応してもらいたいというのが大前提である。先程から、再度新築について議論したほうがいいという意見が出ている。会長の言われるとおり、議論としては後戻りすることになる。しかし、市民の代表が参加している検討委員会の意義について考えてもらいたい。意見とは、外部の変化に対応して往々にして変化するものである。円滑な運営にならず、困るのかもしれないが、魚津市にとって一世一代のプロジェクトであり、場合によっては一度後戻りするプロセスがあっても意義のあることだと思うし、それでこそ市民が議論に参加したということになるだろう。仮に明日、市長に報告するとしても、今日出たような意見があったことも踏まえ、報告書は報告書、意見は意見ということで含みを持たせてもらいたい。もう一つ、報告書（案）に意見を申し上げる。2ページの基本理念、3行目にある「本市への誇りと愛着を育む」という表現は不自然である。「本市」という自治体があるのかと一瞬思ってしまう。この表現は、「本市」を「魚津市」と明記するほうが、より愛着の強まった理念になるのではないか。

会長 始めから、報告ありきの日程を申し上げてしまったこと、また、前回の会議から時間が経過しており、様々なご心配も募る中で、今回の意見を頂戴したものと思っている。そ

ここで提案だが、市長への報告書は今回の（案）で取りまとめるが、次年度以降、具体的な議論が深められる中で、報告書の内容が一部修正になることもある、という認識でご承認いただくことはできないか。

委員 報告書で、後で修正されるかもしれないという体裁は考えられない。

会長 報告書の内容は、細かい修正を除いては変更されない。基本理念と基本方針及び整備場所について取りまとめた報告書であり、この報告書をもとに来年度以降の計画が進められていく。報告書の内容を、再び検討委員会に差し戻して議論するということは考え難い。

委員 場所を変えてもいいという前提では議論できないのか。

副市長 報告書（案）のとおり承認いただきたいと考えていたが、本日の議論を踏まえ、報告の際には委員の意見を口頭または書面で補足するという形式を取らせていただきたい。建設候補地については、次年度以降の事業が控えていること、また候補地が変わればこれまでの議論が根本的に変わることから、基本的には現在取りまとめた（案）のとおりご承諾いただきたい。事務局としても、様々な候補地を検討したが、制約があり難しかったという経過があり、どうかご理解いただきたい。

会長 基本理念や基本方針、整備場所については委員会としてご了承いただいたと考えており、それを前提に資料が作られている。ただ、そこも含めて白紙検討もありうるというご意見をいただいた。そういった意見を載せた議事録を添えて報告書を提出すればどうか。今後、計画の具体化に伴って、貴重なご意見をたくさんいただけたらと思う。それに伴い、市長への報告書の中で提案した内容を見直した方がいいといった意見も出てくる可能性もあると考えている。

委員 候補地選定の際、第2回会議でいきなり二者択一に絞り込まれていたが、場所はもっと議論すべきだった。2月に報告書を提出するというスケジュールに持っていこうという進め方だったと受け止めている。現在地のほか、旧大町小学校や、旧村木小学校、魚津駅、旧総合体育館の周辺なども考えられたと思うが、議論しなかった。第2回会議の進め方は不満であった。

副市長 場所の選定について広く検討しなかったのではないかとのご意見だが、市とすれば様々な場所を検討してきた中で、整備のしやすさや、駅周辺の活性化の面などの利点を考慮し最終的に市有地2か所を選定した。1か所1か所は検討してきたものの、皆様への説明が足りなかったことは大変申し訳なく思っている。他の場所での整備はなかなか難しく、すぐには実現しないことも踏まえ今回の結論になっていることをご了解いただきたい。ご意見はあると思うが、議事録として報告に添えることとさせていただきます。

委員 これだけ皆さんが意見を述べている中、候補地の再検討のプロセスに戻るとするのは難しいのか。

会長 報告書案のP7にもあるが、他の整備候補地として「旧魚津市総合体育館及び吉田グラウンド」、「大町小学校跡地」、「駅前地域での都市開発」、「駅との複合化」を事務局から説明した際に、メリットやデメリットについて報告していただいている、それを簡単に資料

1 の中では書いてあるが、実際には会議で具体的に示していただいていた。事務局側から説明が不十分との発言があったが、私はむしろ委員の一人ひとりの理解や認識の度合いを確認しながら進行していかなかったことを反省している。検討のやり直しは根拠がはっきりすればあり得るが、第1回・第2回会議で了承いただいた内容に基づいて第3回会議の報告書案が作られている。先に申した通り、皆さんの今日のご意見は議事録に記録することとし、報告書の中身についてはまとめられた内容で進めていただけないか。

委員 反対である。根拠があれば議題を戻すのもあり得るとのことだが、皆さんのご意見こそ根拠ではないか。委員の理解の度合いが異なっていたことが、今回意見として表れている。進行優先で、この報告書（案）でもってよしとすると、我々委員の今後の参加に対するモチベーションはどのようになるとお考えか。

会長 私が根拠と申し上げたのは、報告書（案）の7ページにも記載のある事務局からの報告に対して、不十分な説明でとても納得できるものではない、整備用地についてはもう一回議論をしてほしい、というご意見については、その根拠がしっかりしていないのではないかとということである。例えば、報告書（案）には他の候補地が簡単に記載されているが、もっと具体的に納得いただけるように書いたほうが良いということか。

委員 例えば次回もう一度、候補地の検討会議などの場づくりをしたとしても、おそらく一致しないと思う。しかし候補地の再検討や意見を第3回会議の場で揉んでみるということによって、この次以降の会議の質が高まるという思いで発言している。

委員 新庁舎に関しては最初から庁舎を新しく建てるのが前提で、この会議が進められてきたと思う。費用的にも業務を進める面でも、この場所で建て替えをするのがベストだと考えた。ただ、その後色々と考えた中で、旧大町小を改築することで費用を抑えられないかと思ったので先ほど発言した。根拠を示していただけて考える余地がないと説明してもらえれば納得できる。新しく庁舎をここで建てることに反対しているのではなく、予算面など色々なことを考えて他の考え方はないのかということを知りたかった。

会長 結局のところ、候補地に関して事務局側が2か所を示したというのは正しい理解ではなく、先ほど申したようにいくつか実際に検討していただき、基準を設けてどこが良いのかを考えていただいた。その基準については皆さんにも納得いただいたと思うが、良いと考えられるもの2つだけに絞った。それがどうして2つに絞ったのか、もっと詳しく説明してほしいというご意見だと思う。整備用地の選定の際の要件に従っていくつもある候補地を2つに絞った、2つの中でさらに精査した、その結果みなさんに原案をご承認いただいたのが前回までの流れだと思っているが、それでもやはりもっと時間をかけて検討しなおしたほうが良いというお考えか。

委員 報道陣に退出してもらえないか。

（報道陣 退室）

委員 候補地案が2か所で、その説明があった。他の候補地はどうかと聞き、説明を受け

て仕方がないので同意した。現在地ありきの進め方のように最初から受け取っている。今回意見を求められたので、報告書提出で致し方ないと思うが、議論した方がいいと思い発言した。

会長 はじめから旧総合体育館や旧大町小学校など報告書に記載のあるところを含めて全部を土俵にあげてその中から選んでいく、という組み立て方をしなかったのは効率を考えたのか、事務局いかがか。

副市長 他の候補地はスケジュールや予算を考慮すると難しいと判断し案から外したが、内部だけで判断せず皆さんと一緒に議論すればよかったと思っており、その点についてはお詫びしたい。もし、どういう検討をしたか聞きたいということであればお答えするのは十分可能である。ただ、皆さんにこれまで忙しい中集まっていただき、いろいろ決めてきたということもあるので、ぜひ明日には報告書を出していただきたいと思っている。整備場所について、どうしてもここの方がいいというご意見などあればお聞かせいただき、お答えしたいと思うがいかがか。

委員 スケジュールを見ていると、整備場所は重要なものにもかかわらず、スケジュールがすごくタイトである。重要なことなのにこのようにタイトでいいのか。他方、基本構想・基本計画は2年かけている。整備場所について我々は納得していないとすれば、検討を来年度以降に持っていけないか。もう一度検討の場を設けるのも難しいのか。あるいは候補地選定の検討資料を見せていただくことはできないか。

副市長 皆さんの意に反して報告書を提出いただいても意味がないので、もう一度検討したほうがいいという意見が多いのであれば、再度検討した上で報告書提出もできないわけではない。市とすれば新築でお願いしていきたいというものはある程度決まっている。場所についてももう少し検討すればいいのではないかというご意見だが、この会議で議論してもいいし、もう一回検討すべきという意見が多いのであればそのように検討したい。

会長 委員ご発言の内容の中に、委員会は何のための委員会なのかといったご意見があったと思うが、その辺に対する回答は副市長のご発言から受け取っていただけたか。

(委員 了承)

委員 前回候補地については皆さんの総意で表向きは賛成した。そのことに異議があるのではなく、検討のプロセスが早すぎたという思いがあったので、何か意見をと言われたため発言した。基本的にこの場所で進めていくのはそれでよいが、建設費の高騰や、デジタル化の中で、どんな規模のものがいいのかとか、その辺のところをもう少し今後深めて、これからは事務局が決めたとおりで進めるのではなくて、議論をする中で方向性を求めていただきたい。今後はもっと議論をした中で叩き台を出していただきたい。報告書案をそのまま提出するかどうかは会長に諮っていただければよい。決めたことを覆せと言っているのではない。意見を求められたので発言しただけである。

会長 これからも本音でご議論いただければこの委員会も存在価値がさらに高まると思う。他の委員の方々についてもぜひお願いしたい。

副市長 この委員会の意義という話もあったが、今後どのような庁舎を建てていくか、機能やデザイン等を委員会に諮っていく予定になっている、その点においても皆様の意見を反映していきたい。また、色々な意見を吸い上げる委員会となるよう努めていきたい。

会長 市長へ提出する報告書の原案について、大方原案通りご承認いただけるか。
(委員一同 了承)

委員 基本理念の、「本市への誇りと愛着を育む」という一文は、どういう意味合いか。

事務局 基本方針1で、「一人ひとりが利用しやすく、親しみやすく開かれた庁舎」としているが、こういったことを誇りと愛着につなげている。点線枠で示している委員のご意見を聞いた上で「魚津市への誇りと愛着を育む」という言葉にしているのでご理解願いたい。

会長 いま承認いただいた報告書案については、どうして場所を現庁舎及び市役所前公園敷地に選定したのか、もう少し詳しく分かる方がよい。今後具体的に検討いただくうえでのおもとなる、共通理解のしっかり持てる報告書となるよう再度ご検討いただきたい。

委員 結局この案で報告するのか。副市長は場合によっては結論がどうなろうと候補地の情報共有、意見交換の場を設けられてもよいとおっしゃったが。

会長 委員の皆様の総意がそうであれば、議論を戻すというのも提案された。ただ皆さんには原案で承認いただいたと進行役は理解している。

委員 場所決めについて意見が多岐にわたっている。もう一度場所についての認識を共有する、意見交換をする場を設けていただいた方がこのあとの検討がスムーズに進むと思う。

委員 候補地選定の資料を送っていただけないか。

副市長 総合的に判断して決めた理由を記載したものをお送りしたいと思う。

委員 旧総合体育館はなぜ候補から外れたのか。

副市長 市で決めている立地適正化区域外であったのが1点。市としては駅周辺活性化計画など過去からの計画との整合性を含めて立地適正化計画を策定した。それともう1点は富山県警の統合庁舎の候補地として打診したこともある。そのようなことを併せて難しいという話になった。

会長 報告書(案)はほぼ原案で認めていただいたということで、もう一度確認したい。
(委員 了承)

会長 報道にはもう入室いただいてよいと思うが。

(報道陣 入室)

(以下、主として資料No.2に関連した質疑、意見等)

委員 アスベスト調査は今から行うのか。アスベストの含有は分かっているのではないか。

事務局 この年代に建てたものに石綿が含まれているという想定はできるが、こういった部材に含まれているかの調査となる。解体の際にどのような処理をするのかを検討しながら進めていくので、重要な資料となる。

委員 予算というのは事業者に見積を取っての予算か。

事務局 そのとおりである。

委員 今後建設の主要な項目は見積を取りながら予算建てをし、大きなものは入札をしながら進めていくことになるのか。

事務局 そのとおりである。

会長 この委員会の意義について問うご発言を受けて思ったことだが、何のための市役所かという認識を行政がしっかりと持っていただき、納得していただける根拠を示すことができるよう、委員やその他市民の立場になって、準備していただけるようお願いしたい。

以上